

トランプは約束を果たせるか？

【訳者注】P・C・ロバーツは、トランプと同じような立場のレーガン大統領のアドバイザーとして、米政府の中枢にいた人である。トランプへの適当なアドバイザーがないことをここで嘆いているが、彼自身が最適だと思う人は私だけではないであろう。しかし彼は完全な反体制論客として、真実を語る危険人物になっている。

トランプの就任後の動向に疑惑が生じ、もしかしたらトランプは企まれた裏切者ではないかという議論がある中で、彼のこの見解は最も説得力をもつものと思える。ムスリム入国制限をめぐるトランプ批判は矛盾している、という本論の結論はその通りである。難民をつくり出したブッシュ/オバマの責任は問わず、その後始末を引き受けたトランプをもっぱら批判するとは、おかしな話であろう。

そもそも、中東難民も ISIS も、これを創り出した者がいるにもかかわらず、自然現象で生じた災害のようにメディアは扱っている。これはオバマが広島演説で、原爆が勝手に空から降ってきたかのように言ったのに呼応する。背後にあるのは、すべて米例外主義とそれを承る拝米主義である。

トランプの行動は、性急に判断すべきではないと彼は言っている。素人が単身、敵中に入り込んだようなトランプを、助言もせず批判するだけでは、うまく行かないだろう。

Paul Craig Roberts

January 31, 2017, Information Clearing House



私のトランプ観は条件的で、証拠を待っている。私は“1パーセント”が、トランプに反対していることに元気づけられている。そうでなかったら、我々は歴史上最大の姦計を経験したことになる。実際それは、体制側がヒラリーという候補を立てたのだから、全く無意味な姦計ということになる。

トランプの大統領令は、彼が“1パーセント”のために働いているという議論を、支持しない。トランプは、グローバル企業が身命と思っていた TPP を拒否した。彼は、企業たちが、国内の給与率を抑えるために利用しようとする大量移民を、締め出そうとしている。彼はロシアとの関係を正常化しようとしているが、これはネオコンや軍/安全保障複合企業に、不

安をもたらすものである。

このように考えたらどうだろう。もしトランプが無法者どもの巣窟を本気で大掃除しようとしているなら、そして支配体制はそう思っているようだが、無法者のやり方以上に有効なものがあるだろうか？

上からの変化は、タフで荒っぽい民衆を要求する。それ以外のどんな者もひき殺されてしまうだろう。

私の立場は、その証拠を待つことである。何年も前から、私の読者たちは何らかの希望が欲しいと言っていた。支配体制に対するトランプの攻撃は、彼らに希望を与える。なぜこの希望を早まって捨ててしまうのか？

最初から私の心配は、トランプが、経済と外交政策の討論の経験をもたないことだった。彼は問題やプレイヤーについて知識がない。しかし彼は 2 つの重要なことを知っている——中層と労働者階級が傷ついていること、それにロシアとの紛争は熱核戦争に終わるということである。私の見方は、これら最も重要な問題の 2 つについて彼を支持することである。

私の気がかりは、トランプがすでに、ロシアとの関係改善について道を誤ったことである。トランプが、就任一週目に、ロシアのプーチン大統領と会談したのは賢明だった。しかしトランプ政権からの報告は、制裁のことに触れておらず、トランプが、制裁の撤廃を核兵器の削減と結びつけていることである。

明らかに、トランプは、もっと明敏なアドバイザーを必要とする。ロシアは、28 の NATO 加盟国に直面して、その人口からいって、この連合の兵力には劣るのだから、彼らの潜在的脅威に対処するためには、核兵器に依存せざるをえない。オバマ政権の下では、ロシアが受けた脅威は、きわめて現実的なものに見えたに違いない。ロシアとその大統領の悪魔化は完全に、明らかなウソに基づくもので、それは戦争には至らなかったものの、歴史上めったに見られない挑発の段階に達していたからである。

もし私がトランプのアドバイザーだったら、彼が最初にプーチンに言うべきことは、「制裁は歴史です。私は、私の前任者の作り上げたウソに基づいて与えた侮辱に対し、謝罪します」という一言だと主張しただろう。

これは必要なことだった。ひとたび信頼が回復されれば、核兵器の削減の問題は、ロシア政府に、二枚舌のアメリカがそれを攻撃の材料にするのかと疑念を与えることなしに、持ち出

すことができる。

もしあなたがロシア人だったら、もしあなたがロシア政府の一員だったら、もしロシア大統領だったら、もしあなたがウクライナの選挙による政府を転覆した、アメリカのクーデタを経験していたら（それは 300 年以上もロシアの一部だった）、もしあなたがアメリカの喉けた南オセチアの、ロシア住民とロシア警備兵に対する攻撃を経験していたら（それはずっとロシアの領土であり、ロシア軍は介入せざるを得なかったが、米政府はこれを“ロシアの侵略”だと言った）——その場合、あなたはアメリカを信用するだろうか？ 信用するのは完全な馬鹿だけだろう。

トランプは、彼が改善することを誓った対露事情について、彼に教えてやるだけの十分な知識をもつアドバイザーを必要としている。

これらのアドバイザーは誰々か？

また“ムスリム入国制限”を考えてみよう。ムスリム難民がアメリカとヨーロッパにとって難問なのは、アメリカとその NATO 従僕たちが、完全にウソに基づいて多くのムスリム国家を爆撃したからである。これだけ戦争の体験をしてきた西洋諸国なら、戦争が難民をつくり出すことを、知っていてよさそうなものである。しかし彼らはどうも知らないようだ。ムスリム難民の問題を解決する最も簡単で、確かな方法は、難民をつくり出す爆撃をやめることである。

どうやら、この解決は、トランプ政権の理解の及ばないもののようなのだ。ニュース報道によれば——そしてニュースの仕組みの売春婦的立場を考えれば、どうかかわらないが——新しいトランプ政権は、イエメンでの SEAL チームによる攻撃を許可し、1月29日、多くの女性や子供に混じって 8 歳の少女を殺したという。私に確かめられる限り、どんな女性たちも、まやかしの“テロへの戦い”の名において、ムスリムたちを殺すブッシュ/オバマ政権を踏襲するトランプ政権に対して、抗議デモをやっていない。

トランプのアキレス腱は、ネオコンたちのつくり出した、統制された脅威である“ムスリムの脅威”を、彼が信じていることである。もしトランプが ISIS を撃ち破ろうと思うなら、彼のなすべきことは、ただ一つ、米政府と CIA に ISIS 支援をやめさせることである。ISIS はワシントンの創ったもので、これがリビアを倒すのに使われ、シリアへ送られて、ロシアが介入するまで、アサドを倒すのに使われた。

誰か十分な地政学的知識をもった人が、トランプは、ロシアとの関係を修復しながら、同時

にイランとの紛争を巻返し、中国を脅迫することはできないと教えてやらなければならない。

私が心配した通り、トランプは、自分のアジェンダを達成するために誰を指名してよいか、分からないでいる。

ところで、トランプ批判者の立場はどういうものか？ それは“アイデンティティ政治”、すなわち、西洋の歴史を、白人のヘテロセクシュアルによる、すべての人間の犠牲化として説明する立場である。トランプに対するこの攻撃は正当なものではない。そして犠牲者政治に浸っている者以外は、だれでもそれがわかる。トランプに対する抗議デモを行い、彼のムスリム禁止を非難する人々は、ムスリム亡命者や難民を創り出した戦争を非難しているのではない。トランプの反対者たちは、“テロへの戦い”や、戦争の根拠になっている9・11物語を支持しながら、“ムスリム・テロリスト”のアメリカ入国禁止には反対するという、矛盾した立場に立っている。もしムスリムたちが、ブッシュ/オバマの物語が主張するようなテロリストであるなら、彼らの祖国へのワシントンの攻撃によって傷ついたムスリムたちの、アメリカへの入国を認めるのは、全く無責任である。彼らは復讐を考えているかもしれないのだから。

リベラル/進歩的/左翼は、とうの昔に労働者階級を見放している。彼らの違法な不平不満の結果は、すべての異見を、違法なカテゴリーへと一つにまとめることになるだろう。だから真実を語る者は、フィクションを語る者と一緒に黙らされる。一般大衆は、トランプへの統制された攻撃と、真実を語る者たちとの区別ができない。

私の結論は、アイデンティティ政治の愚かさは、異見を認めないことによって、右翼の最悪の要素を勢いづかせることである。